

広島工高が初の頂点

甲子園 強度部門で高得点

コンクリートの強
度、プレゼンテーシ
ン、デザインで高校日

本一を競う。四国
から南は四国まで、過去
最多となる28校がエン
トリートし、予選を勝ち
抜いた13校が決勝に進
出。3部門で高得点を
あげた広島県立広島工
業高等学校が初の総合
優勝を果たした。



各校それぞれ独自の工夫をプレゼンで解説

強度部門は各チ
ーム3本の供試体を作製
し、その平均値が目標
強度の58N/mm²となる
ことを目指した。強度
部門を制した広島県立
広島工業高等学校の平
均値は59.2N/mm²。
地元の生コン会社の技
術協力を受けて水セメ
ント比のグラフを作成
し、そこに予選で得ら
れた数値を加えて本選
用の供試体の水セメン
ト比を3パターンに
絞った工夫が実った。
プレゼンテーション
部門を制したのは広島
県立総合技術高等学
校。当初設定した水セ
メント比では規定の強
度が出なかったことか
ら、高性能AE減水剤
を使用するともに、
前回大会のデータや資
料を参考に混和剤の使
用量や水セメント比
、細骨材率を調整したこ

デザイン、プレゼン競う 学生の発想で課題克服

となどを審査員に的確
に開設した。

デザイン部門は広島
県立広島工業高等学校
定時制が制した。コン
クリートの色が一般的
にぬすみ色であること
や、工業という言葉に
は男性のイメージが強
いことを払拭するため
に、女子生徒の意見を
取り入れて、愛らしい
オス、メスのネズミの
キャラクターを供試体
に描いた。



山中本部長

大会に先立ちあいさ
つした産連西国地区



広島県立広島工業高等学校
(土木科)

生コン会社の協力で工夫を施した



林准教授

審査委員長を務めた
香川高等専門学校の林
和彦准教授は「限られ
た制約の中で目標強度
を目指すのは難しかっ
たと思うが、地元の生



強度部門の審査の様子

コン会社と連携するな
どの工夫がされたこと
はとてもよいことだと
感じた」と大会を講評

した。大会を通して、
徳島県立阿南工業高校
が特に印象的だったと
し、審査員特別賞を授
与した理由について、
「予定していたよりも
強度が出過ぎたことに
気づいたが配合をやり
直すという時間がない
中で、供試体を乾燥さ
せることや、養生温度
を下げるという修正を
した。結果としては目
標強度を超えてしまっ
たが、最後まであきら
めずにやるといふこと
の大切さを教えてくれ
た」と努力を称えた。